

昨年より難易度上がる

1級建築施工管理実地試験

資格発表
合評
総総

建築・不動産関連に資格スクール、総合資格学院を運営する㈱総合資格(本社=東京都新宿区、岸隆司社長)は、10月16日に行われた平成23年度1級建築施工管理実地試験について、総評を発表した。

例年と比較して、問題1が例年並みの難易度、問題2、問題3、問題4、問題6がやや難しく、問題5は易しかった。特に問題1に関しては、しっかり学習してきた受験生であれば、十分な解答ができたと思われる。

る。全体としては、問題1以外の出題で難易度が上がったため、近年最も合格率が高かった昨年よりは難しかったものと思われる。また、同時に行われた平成23年度宅地建物資格者試験は、今年は大きな法改正がなかったため、それについての出題はなかったが、その代わり、従来には見られないよう

な形式や内容の問題が出題され、新傾向化が見られた。法令上の制度及び税・その他は昨年並みの難易度、宅建業法については昨年と比較してやや難しかったと思われる。全体を総合すると、合格基準点は昨年と同程度とすることが予想され、昨年同様、ハイレベルな得点争いとなることが予想される。